

# WAS と Form Magic の活用提案が 新たなお客とのビジネスのきっかけ!



代表取締役社長  
山本 久喜 氏

商業印刷をメインに一般企業の広告宣伝物から帳票や事務用印刷、挨拶状、名刺といった幅広い分野の仕事を行っている東洋美術印刷株式会社。富士フィルムグローバルグラフィックシステムズと東洋美術印刷とのお付き合いは多年に渡っています。1996年にそれまで電算写植で処理していた保険会社の伝票・帳票類をDTPソフト「WAVE」に置き換えていただいたのがきっかけです。それ以来、「WAS」「Form Magic」といった弊社製品をご導入いただいています。同社、代表取締役社長の山本久喜氏に現在のシステムの活用状況と今後の展望についてお話を伺いました。

## サーバーサイド自動組版《WAS》 での名刺作成

創業昭和10年、70余年の歴史を持つ東洋美術印刷株式会社。最近では企画・制作やプロデュースといったクリエイティブな分野にも力を入れていて、地元商店街の活性化のためのイベント運営に学生と共同で企画から携わったり、若手起業家を支援するためのシェアハウス・シェアオフィスとして、別館をリニューアルして提供するなど、積極的な活動を行っています。そんな東洋美術印刷ですが、商業印刷がメインなので、昔は名刺やポストカードなどといった仕事はクライアントからお申し出があった場合に取り扱っていたそうです。

「昔は名刺の仕事があると活版の名刺専門の外注を頼んでいたこともありましたが、その後、社内でのDTPによるデジタル印刷へと移行していきました。ただ、以前は外注に依頼していた部分を社内でも処理した場合、制作でミスがあったり、営業も校正を手持ちやFAXしたりで大変でした。そうした問題を解決できないかと考えたのが《WAS》導入のきっかけです」と山本社長。ただ、《WAS》を導入して名刺のビジネスを積極的に進めていくに当たりほかにも考えたことがあったそうです。「《WAS》を導入して名刺に特化して

成功している会社があることは知っていました。しかし、当社の場合は名刺に特化するのではなく、別の方法をと考えました。それが、名刺を入り口としてほかの仕事に展開していくアプローチです」と山本社長は言います。

「名刺の仕事は当社も大変ですが、お客様側でも発注や校正チェックでかなり手間がかかっているという話がありました。《WAS》は、名刺の情報をWebブラウザから入力すれば、サーバー上で自動組版を実行し、その場で印刷イメージが確認できます。この仕組は当社の制作や営業の手間を減らすという点で効果がありますが、お客様の手間を減らすという面でも効果があります。名刺は「スピード」や「価格」を言われがちですが、それ以外に「名刺に関わる手間を減らします」というお客様側のメリットを提案できるのが《WAS》の良い点です」と山本社長。

それ以外にも《WAS》は情報をサーバーで一元管理しているため、SSLで入力を暗号化すれば情報漏えいを防げるので「個人情報管理がしっかりした体制で名刺を作りませんか」という提案をお客様にすることもできます。

「お客様側のメリットが明確なので、提案形式での営業が簡単です。実際、想定問答集を用意して、都内の従業員何人以



「ラクラク名刺」のカタログと《WAS》《Form Magic》による出力サンプル

上の会社を対象にといった形で新人研修の一環としてテレマーケティングをさせています」と山本社長。

お客様と仕事をする上でのきっかけとして「名刺」は重要だそうです。「お客様の手間を軽減させませんか」という提案をして、受け入れていただいたお客様との間には信頼関係が構築され、その信頼は名刺以外の仕事に繋がっていきやすいとのこと。東洋美術印刷が《WAS》を使って提供している名刺作成サービスは「ラクラク名刺」という名前です。この名前からもお客様の手間を減らしたいという思いが伝わってきます。

設立	1948年(創業1935年(昭和10年))
資本金	2000万円
本社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-6-2 URL: <a href="http://www.toyobijutsu-prt.co.jp/">http://www.toyobijutsu-prt.co.jp/</a>
従業員数	104名
事業内容	商業印刷物(カタログ・パンフレット・ポスター・カレンダー等)、事務用印刷物、出版印刷物、コンピュータ用連続帳票などの企画・デザイン・製版・印刷・製本加工、各種デジタルサービス(CD-ROM・ホームページ作成等)

## バリアブル印刷のプロが選択した《Form Magic》

《Form Magic》の導入に当たって二つの用途を考えたそうです。「名刺制作の基本は《WAS》ですが、人事異動などで短期間に大量注文があった場合、従来は《WAVE》を使ってバッチで自動組版してきました。これを《Form Magic》に切り替えていきたいというのが一つ。もう一つは、ダイレクトメールの宛名などのバリアブル印刷用途で積極的に使っていきたい」と山本社長。東洋美術印刷では、黎明期からバリアブル印刷に取り組んできました。

最初は海外ソフトや他社のバリアブルソフトを導入して、試行錯誤しながらバリアブルに取り組んできました。そうした中で制作現場が選んだバリアブル印刷ソフトが《Form Magic》です。「縦組」を苦手としない点や組版の自由度が高く、他社ソ

フトでは難しい組版設定が簡単にできる点を制作現場は高く評価している」と山本社長はおっしゃってくださいました。

## 自動組版を使って、お客様のメリットを生み出す

最後に、今後の展望について山本社長にお伺いしたところ「自動組版をお客様の手間の軽減であったり、付加価値を創出したりする手段として利用していきたい。当然、社内のオペレータの負荷やミスが減ることもあるでしょうが、それ以上にお客様にとってのメリットを提案する目的で使っていきたい。《WAS》については現在B2Bがターゲットですが、B2CをターゲットにしたWebシステムがあればと思います。今サッカーチームのサポートをしていて、チームのサイトからカレンダーやタペストリーを販売しています。こういったサイトと連携できる簡単なシステムがあれば

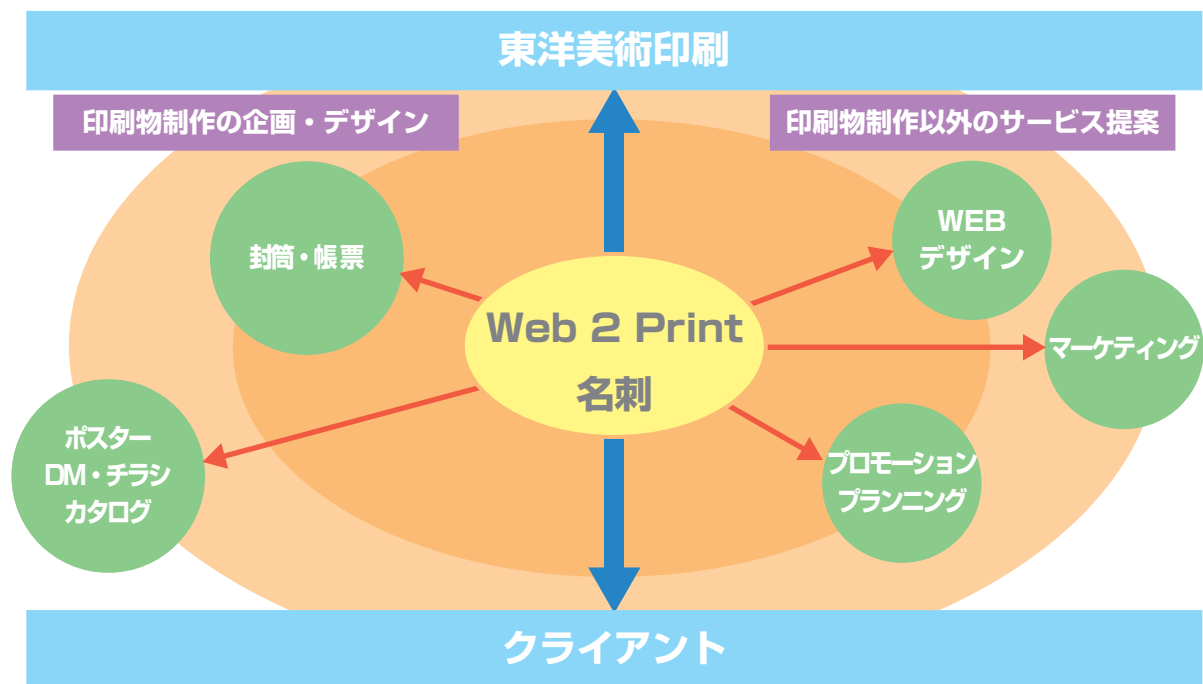
いいですね。《Form Magic》に関しては、《Form Magic 4》はバリアブル印刷だけでなくページ物もできるので、データベースと連動したカタログオンデマンドや保険の約款の自動組版への展開を期待しています」という答えが返ってきました。

このような東洋美術印刷の熱い思いに応えるためにも、よりよい製品を開発していきたいとあらためて感じました。



平成19年完成の東洋美術印刷の本社ビルディング。

### 東洋美術印刷のビジネス展開



# FUJIFILM

●お問い合わせは下記まで

富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布2-26-30 富士フイルム西麻布ビル

TEL:03-6419-0300(インフォメーションダイヤル)

URL <http://ffgs.fujifilm.co.jp/>